

くりはら思春期健康教育事業



北部保健福祉事務所栗原地域事務所

母子・障害班

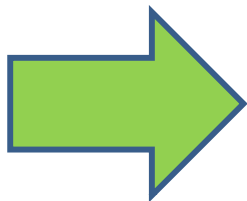
○菅原真弓

佐々木真由美

小室葉月

はじめに

- ・悩みながら迷いながらの取り組み
- ・高校生，中学生が，性に関して，はずかしいことではなく，自分のこととしてとらえ，正しい知識を得ることができた。
- ・健康教育を実施した高校生は，達成感，充実感を感じ，生き活きた表情になった。



多くの効果を実感

経緯

H16～H18年度

「思春期ピアワーク事業」

T短期大学の学生の協力を得て、管内の中学生を対象に取り組んだ。

H19年度

学校主体で実施することとしたが、生徒から生徒への健康教育を行うまでには定着せず、1校のみの実施。

H20年度～

「くりはら思春期健康教育事業」を開始

※予算は公用車の旅費のみ

やめられなかった理由と目的

10歳代の望まない妊娠，人工妊娠中絶，HIV感染症を含む性感染症の増加

中学生・高校生の性教育が重要視

栗原管内においても例外ではなく，10歳代の妊娠・出産とその後の育児のフォローを要する事例がある

目的



思春期にある子ども達が，自分がかげがえのない大切な存在であることを認識することにより，他者をも大切にし，性の自己決定能力を高める

方法の吟味

ピア（仲間）からの健康教育

- 思春期の若者には、年代の特性から同じ文化（同世代）の中で価値観を共感・共有して、共に学ぶ健康教育（性教育）が効果的と考えられている。

有名な講師ではなく

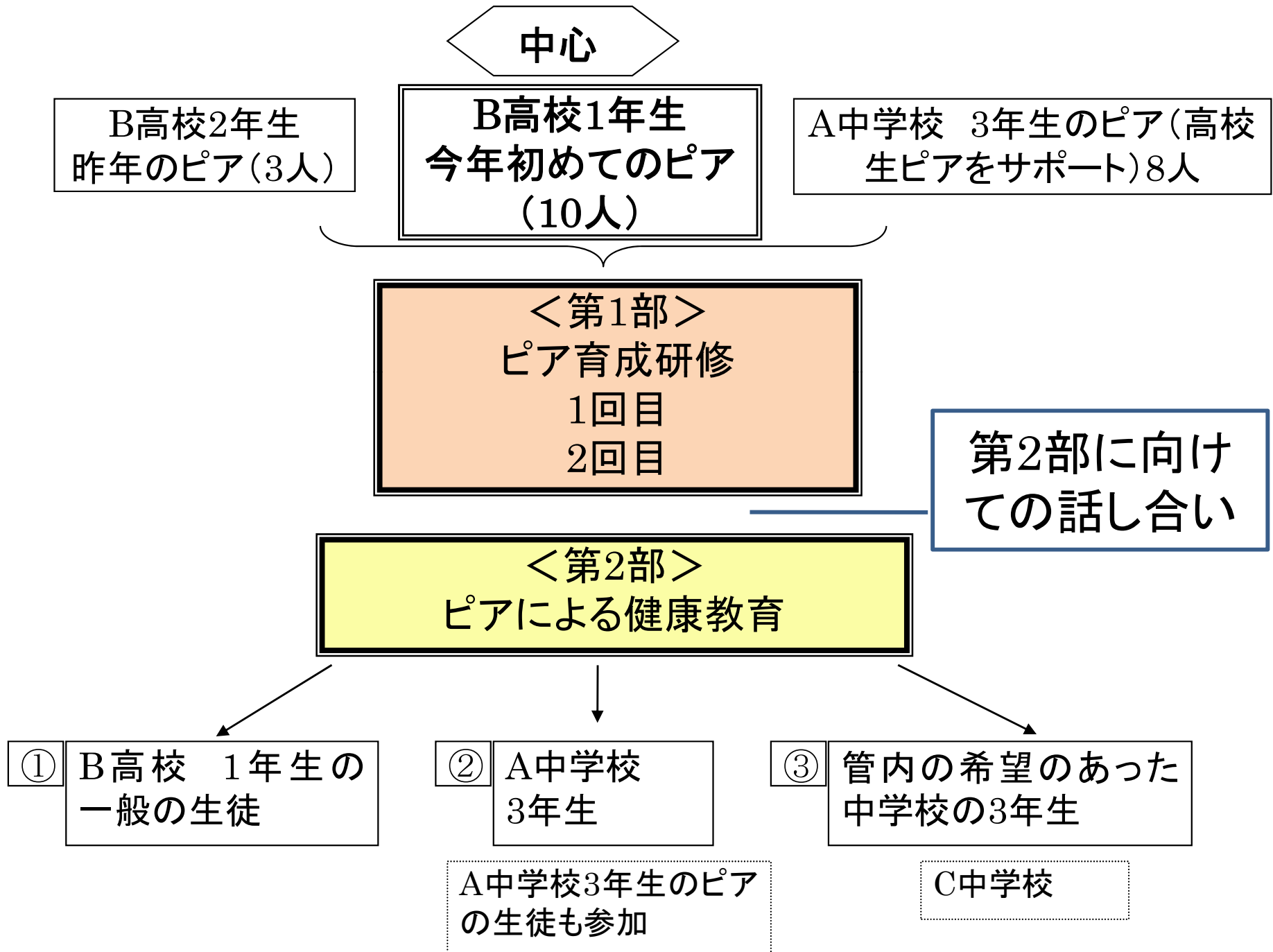
生徒が生徒に教える

この手法を取り入れてみよう！

活動経過

年度	主催	ピア	健康教育の実施
H20	当所	A中学校3年生	A中学校3年生(1回)
H21	当所 市	B高校1年生	B高校1年生(3回) A中学校3年生(1回)
H22	当所 市 B高校	B高校1年生 2年生	B高校1年生(2回) A中学校3年生(1回) C中学校3年生(1回)

平成22年度 くりはら思春期健康教育事業のフロー図



第1部ピア育成研修

(1) オリエンテーション

平成22年7月29日実施

- ・思春期ってどんな時期？
- ・なぜ同年代の人たちから話を聞くことが効果的？
- ・2日間の研修内容とその後の予定を説明

講話やグループでの話し合いから、体のこと、性のこと、自分を大切にすることなどを、学んでほしい。

その後、みなさんが感じたこと、学んだことを、みなさんの言葉で、同級生と中学校3年生を対象に、話してほしい。

(2) 1回目の達成目標

B高等学校、A中学校のピアの生徒が、

- ① 妊娠、出産の過程から、また出産後はお世話してもらわないと生きられないこと、そして愛情をかけてもらって育ったこと等から、自分がかげがえのない大切な存在であること、自分を大切にすることはどういうことかを認識することができる。
- ② ①の感想をグループのメンバーと一緒に話し合うことができる。

(3) 1回目の実施内容

平成22年7月29日実施

① 講話「赤ちゃんの誕生」

～自分を大切に生きること～

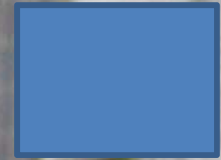
講師 市 助産師

赤ちゃん人形, 妊婦体験器を用いながら
の健康教育

② グループワーク「自分を大切にすることとは」

～具体的に考え, 話し合おう～





(4) 1回目の結果

参加者の感想(グループワーク)

- ・自分が生まれる確率, すごい。
- ・生まれてくるのがあたり前だと思っていたが, そうではない, そうではないことがわかった。
- ・妊婦体験器が意外と重かった。おなかの中に赤ちゃんがいることを考えると大変だろうなと思う。お母さんに感謝しなくては。

質問: 今彼氏から体を求められたら?

- ・嫌だとはっきりいう。それで離れたらそれまでの人
- ・自分が良いと思うまで待ってもらう
- ・話し合う



目標①②ともほぼ達成と考える

(5)2回目の達成目標

B高等学校、A中学校のピアの生徒が

- ①性感染症について正しく理解できる。
- ②1回目、2回目で得た知識や感じたことを自分の言葉で表現し、グループのメンバーと共有できる。
- ③自分の将来の夢、やりたいことを考える機会にし、その実現のために今できることは何かをグループのメンバーと共有できる。
- ④1回目と2回目①～③から、ピアの生徒が一般の生徒に伝えたいことを整理できる。

(6)2回目の実施内容

平成22年8月5日実施

①講話「性感染症とその予防について」

講師 B高校 養護教諭

②グループワーク「同年代の男女に伝えたいこと」

- ・性感染症の講話をきいて、学んだことや感想を聞く
- ・みんなの将来の夢
- ・夢の実現のために今、自分ができるとは何か考える
- ・高校1年生、中学校の3年生に伝えたいこと

(7)2回目の結果

参加者の感想(グループワークから)

目標①②について

- ・(性感染症は)決まった人しかならないと思っていたが、誰でもなることがわかった。
- ・予防できることはしたい。・治療の仕方が分かってよかった。

目標③について

看護師, 公務員などそれぞれが希望を持って話していた。そのために今すべきことは, 「勉強をする」「資格をとるための知識などを調べる」など, 具体的な考えを話していた。

目標④について

- ・命の大切さ ・自分を大切にする ・相手も大切にする
- ・性感染症は誰でもなる可能性があること。



目標①～④ともほぼ達成と考える

第2部に向けてのピアの生徒の話し合い

(1) 同級生，中学生に何を伝えたいか

「命の大切さ」

「(性感染症等の)正しい知識」

「相手とコミュニケーションできる」

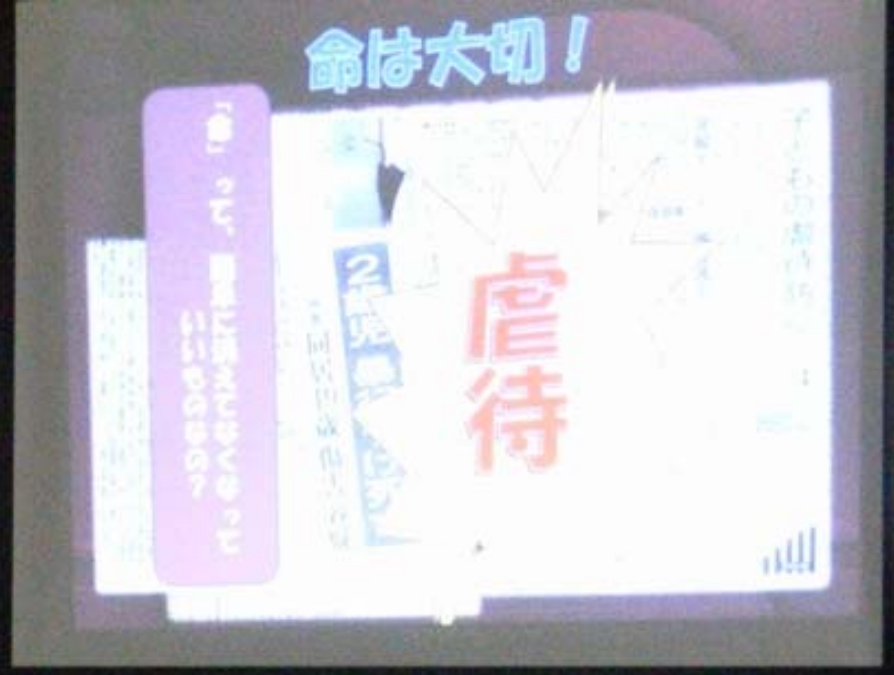
(2) 発表は三部構成で実施

- ① 生命誕生～命の大切さ～
- ② 望まない妊娠を防ぐために
必要なこと
- ③ 性感染症について

第2部ピアの健康教育



日程	対象	ピア実施者
11月22日	B高校1年生76人	B高校1年生8人
12月10日	A中学校3年生75人	B高校1年生10人 A中学校3年生8人
2月1日	C中学校3年生約100人	B高校1年生10人
3月2日	B高校1年生約120人	B高校1年生10人



第2部ピアによる健康教育

健康教育を受けた生徒の実施後の感想 (高校, 中学)

- ・先生や大人に教えてもらうより、同じくらいの年の人に教えてもらってわかりやすかった。
- ・性感染症を防ぐために正しい知識が必要だと思った。
- ・自分の体を大切にしなければならないと考えさせられた。
- ・赤ちゃんの抱っこ体験などで、命の大事さ、重さを実感した。
- ・望まない妊娠ほど悲しいことはないし、お互いの心も体も大切にしないといけないのだと改めて思った。

健康教育を受けた生徒に、伝え
たかったことが伝わっている

第2部ピアによる健康教育

健康教育実施後のピアの生徒の感想

- ・中学生が真剣に聞いてくれていて嬉しかった。それに、中学生が理解したことが感想などでわかって、やってよかったなあと思った。
- ・自分自身もさらに良くわかった。
- ・改めて命の大切さなどを学ぶ事ができた。

教えることで知識が深まる

達成感

充実感

H22.12.15 河北新報に掲載された記事

命の重みを実感

河北
H22.12.15

追桜高↓栗原・若柳中「妊婦」に苦勞

追桜高（栗原市若柳）に、性の知識を正しく身の生徒が若柳中の生徒に付けることの大切さや

生命の尊さを伝える授業「ピアワーク」（県北部保健福祉事務所栗原地域事務所、栗原市、追桜高主催）が10日、若柳中

で行われた。思春期の中高校生が連携して学び合うことで、性に正しく向き合うよう

にするのが狙い。若柳中の3年生約90人が出席し、追桜高の1年生10人が解説した。

重しの入ったベストを着用しての妊婦体験では、若柳中の男子生徒から「母親は出産するまで重い体で生活し、大変だと思った」との声が上がった。



妊婦体験に取り組む若柳中の男子生徒

望まない妊娠を防ぐための心構えも学習。追桜高生が「避妊の正しい知識を持ち、いい出会い、いい付き合いをしてほしい」と呼び掛けた。性感染症の怖さや予防法についても説明した。

追桜高、若柳中それぞれの代表がことし、勉強会などを重ねて準備を進めてきた。追桜高のメンバーは「中学生が理解しようとしている。懸命に聞いてくれた。自分を大切に生きていくことを学んでもらえた」と話した。

先生は高校生

まとめ1

中・高校生は自分の意見を人に伝えるのが苦手??

- ・グループワークで意見が出にくかった。
- ・主語がない言葉が多く、何を言おうとしているか理解しにくかった。

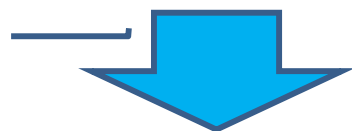


中・高校生は自分の意見を人に伝える機会が少なかった

グループワークが楽しかった

今までやったことがなかった

介入



ピアの高校生は、自分達で伝えたいことをまとめる力があつた。

ピアの高校生は、何度も練習して健康教育を実施できた。

先輩ピアの役割と成果

- ・スタッフとして参加 → 2年生の参加意識の向上
- ・昨年度ピアとして実施した感想を伝えてもらう。

→ 1年生がピアになる意識付けになった

- ・グループワークで意見が出ない時, 1年生が意見を出しやすいように声かけをする。

→ 21年度のグループワークは, 参加者は初め緊張していた様子であった。22年度は, 意見が出ない時に2年生が意見を出しやすいように声かけをしたので, 1年生は初めから意見を出しやすかったようだ。

先輩ピアの変化

(1) 発言

- ・(昨年と同じ講話内容について)「昨年より良くわかった。理解が深まった気がする。講話がうまくなったのかな?」
- ・「今回も参加して良かった。深くわかった。自分のためになる。」
- ・「グループワークとかがいっぱいあって、よかったと思う。」

深く理解
する

自分のことと
してとらえる

自分の意
見を言える

(2) 表情

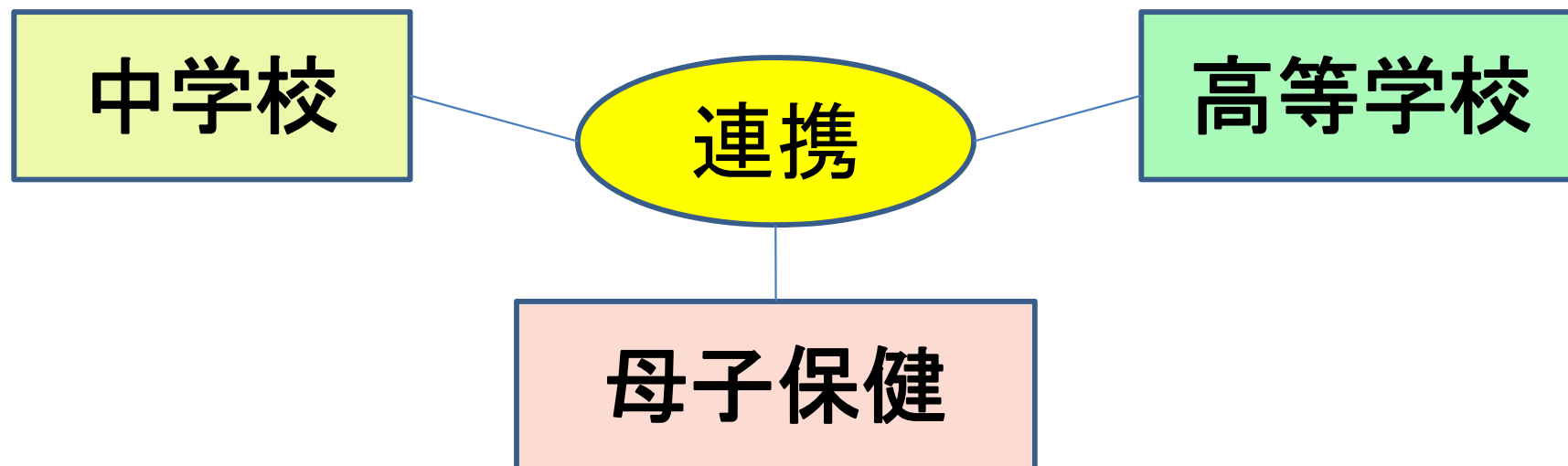
明るい

自分達が1年生
とスタッフから頼
りにされている

充実感

自己効力
感の向上

H22年度実施してみてわかったこと



- ・学校の現状が見えてきた。
- ・母子保健の現状を伝えられる。
- ・学校—母子保健の課題がつながっている。

幼さ

正しい知識の欠如

性行動の若年化

10歳代の妊娠・出産

くりはら思春期健康教育を実施してみたの効果

先輩ピア

自己効力感の向上

ピア

達成感, 充実感

知識を深める

表情明るい

健康教育を受けた高校生・中学生

正しい知識を得ることができる

はずかしいことではなく, 自分のこととしてとらえられる

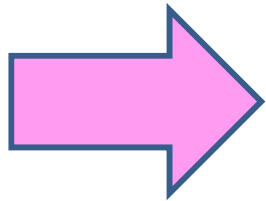
スタッフ

生徒との相互作用で, 明るく仕事ができる

予算はかからない

今後の展望と課題

- B高校ピアの生徒の活動を継続できる。
→前年度のピアもスタッフとして、先輩ピアとして活動できる。
- ピアの高校生をB高校以外にも広げる。
- ピアの高校生から健康教育を受ける中学校を増やす。



中学生・高校生が正しい性感染症の知識を持ち、望まない妊娠をしない栗原地域になる！